



抱 負 に か わ る 願 い

生物生産学部長 角 田 俊 平

このたび生物生産学部長としてその任に当たることとなった。非才の身であり、その柄ではないから、特に申し述べるほどの抱負は持ち合わせていない。しかし選ばれたからには、その巡り合わせを使命と受けとめ、課せられた責務を誠実に全うするよう努めねばと期している。

歴史は過去の集積であり、歴史から未来を学ぶことができる。創設以来、40年余にわたって培われてきた学部の伝統を継承し、学部構成員の意志に沿って、これをさらに発展させることが肝要と考える。大学・学部にとって最善の道は何であるかの基本的理念を常に問いただしながら、事に当たっては教授会、委員会等で率直に討議し、衆知を集め、意志を同じくして臨むという雰囲気を醸成することが大切であろう。

学部が西条キャンパスへ移って早や2年が経過した。早急な移転が切望されながら、諸般の事情でただ一つ取り残されていた施設である水産実験所の移転も、関係者各位のご尽力によってようやくめどがつき、移転が完了する日も遠くないようである。学部改組後す

で10年余が経過し、研究科博士課程が発足してから5年を経てその運営も軌道にのり、当面の学部の体制はほぼ整備されたといえる。この辺りで生物生産学部の実像を定かにする必要があるように考える。

改めて申すべきことではないが、大学の基本的使命は研究・教育にあって、何よりもまず学問研究の水準において最先端に立ち、その実力をもって大学教育をなすべきである。応用科学の一分野を担い、実学を教授する当学部は、象牙の塔として地域の外にそびえていてよいわけではないし、社会から全く独立的に存在しうるわけでもない。時流にのみ追従することは厳に慎まなければならないが、先端的な、独創的な研究を推進することが必要である。同時に、農学に係る分野では、地味で息の長い泥くさい基礎的研究もまた大切である。実り多い研究と魅力ある教育を行うことによって、門戸を全国に向けて、さらに世界に向けて開くべきであろう。21世紀へ向けての学部の研究・教育の充実と強化のために、学部構成員の積極的なご協力を得たいものと願っている。